



Title	参考資料：災害を契機とした北海道への移住事例
Author(s)	国土保全学研究室
Citation	国土保全学研究室活動報告書, 179-184
Issue Date	2019-03-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75304
Type	other
File Information	27-Case example.pdf



災害を契機とした北海道への移住事例

平成 26(2014)年 6 月 13 日まとめ

【趣旨】 大規模災害に備えた自治体間の広域的な支援体制の重要性が東日本大震災以降、強く認識されるようになっていきます。
近代北海道では、本州・四国・九州(以下、内地)から多くの住民が来住し開拓に従事しました。移住の背景として、北方警備や産業振興等と並んで土砂災害・洪水などの大規模災害による被災が大きな要因となっています。被災者が北海道へ移住した著名な事例としては奈良県十津川村から北海道新十津川町への移住が知られています。このような事例を広範囲に調査することにより、北海道と内地を結んだ自治体間の相互支援に対する意識の高まりや、今後の地域防災力の強化に役立つきっかけとなることを期待しています。
調査結果がまとまったため、今回はその一部を公表します。

【調査期間】 平成 25(2013)年 8 月～平成 26(2014)年 3 月

【注意事項】 現時点の結果は文献調査のみによるものです。今後の追加調査によって内容が修正されることがあります。

限られた期間・資料による調査のため、事例が漏れているかもしれません。
リストに出ていない事例をご存知でしたら研究室までご連絡していただくと幸いです。

【謝辞】 本調査は富田三紗子氏(大磯町郷土資料館)、大和田努氏(帯広百年記念館、北海道大学大学院文学研究科)、阿部哲也君(北海道大学大学院文学研究科)に協力してもらいました。

なお、本調査は(一社)全国治水砂防協会の支援を受けて実施しました。

国土保全学研究室(大学院農学研究院)

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/kokudohozen/index.html>



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



表－１ 災害による移住一覧

北海道側（移住先）と本州・四国・九州側（移住元）の市町村史等から 45 事例を検出した。

図－１ 災害による移住の年代別件数

1890 年代（A）および 1907 年～1911 年（B）で件数が多い。

A の時代には明治 24（1891）年濃尾地震、明治 26（1893）年長良川氾濫、明治 28～29（1895～1896）年北陸の土砂災害が発生している。

一方 B の時代では明治 40（1907）年および明治 43（1910）年北関東、東北水害が発生している。

図－２ 1890 年代の岐阜及び北陸三県の災害と北海道移住

白山周辺の手取川、九頭竜川などの河川が同時期に氾濫した結果、地域レベルの救済・復旧が困難であったことが予想される。また、移住を決断した地域はその多くが急峻な溪谷や河川の合流点など、災害発生時に甚大な被害が生じやすい場所に位置していたことがわかる。

表-1 災害による移住一覧

	振興局	入植年	出身地	団体名	出身地	契機となる災害	入植年	入植地	出典
1	檜山	1882	徳島	団体名なし 代表者池田安兵衛	徳島県麻植、阿波、名西、名東、板野	吉野川の氾濫	明治15年	瀬棚町共和（旧茂西）	『瀬棚町史』
2	後志	1886	徳島	北方団体、南方団体	徳島県那賀郡	明治17年の不作、明治18年徳島県下の大暴風	明治19年	仁木町	「瀬棚町史」
3	空知	1889	奈良	十津川団体	奈良県十津川村	明治22年十津川大水害	明治22年	新十津川村	『新十津川百年史』
4	空知	1894	富山	兎谷徳平の団体	富山県砺波郡小矢部市	小矢部川の洪水	明治27年	芦別市	『新芦別市史』
5	オホーツク	1895	高知	土佐団体	高知県高岡郡尾川村	明治25年以来の山崩れ、洪水	明治28年	下常呂原野（常呂町土佐）	『土佐郷土史』
6	後志	1896	福井	団体名なし 松岡農場（小作人募集）	福井県	明治28年福井水害	明治29年	ニセコ町松岡農場	『ニセコ町史』
7	空知	1896	石川	団体名なし	石川県	石川県雲峰白山山麓の白滝での大洪水	明治29、30年	奈井江町白山部落	『奈井江町百年史』
8	十勝	1896	鳥取	池田農場の小作人①	鳥取県	明治26年の千代川・袋川の氾濫。 明治29年の洪水。鳥取市街に浸水家屋1570余。	明治30、31年	池田町下利別 豊頃町牛首別	『池田町史 上巻』
9	十勝	1896	福井	池田農場の小作人②	福井県（坂井郡）	明治28、29年の凶作。 明治29年の洪水。九頭竜川流域の坂井郡に打撃。	明治30、31年	池田町下利別 豊頃町牛首別	『池田町史 上巻』
10	留萌	1896	三重	伊曾島団体	三重県桑名郡伊曾島村（一部木曾岬村の農民）	明治20年木曾川河川改良工事、海水の侵害	明治29年	苫前町古丹別	『苫前町史』
11	留萌	1896	三重	長島団体	三重県桑名郡長島村	木曾川の洪水、明治20年木曾川河川改良工事、海水の侵害	明治29年	苫前町川南、川北	『苫前町史』
12	オホーツク	1897	岐阜	岐阜集団	岐阜県揖斐郡稲富村三反畑、岩見沢（岐阜から一度目に入地）	根尾川の度重なる氾濫、明治24年の濃尾大地震	明治30年	常呂町岐阜	『開墾』（常呂町岐阜地域の集落史）
13	オホーツク	1897	高知	北光社	高知県	毎年の台風による集中豪雨	明治30年	クンネツ原野、北見上常呂（現在の北見市北光）	『北光社開拓記念誌 90年の歩み』
14	オホーツク	1897	新潟、山形	北海道同志教育会学田農場	新潟県・山形県など	豪雪・諸川の氾濫（具体的な災害は挙げられず）	明治30年5月	湧別原野学田農場	『遠経町史』
15	上川	1897	青森、岩手、宮城	（旭川への移民）	青森県、岩手県北部、宮城県	明治35年（夏の低温と秋の台風）、38年（冷害）の東北地方凶作	明治30年代	旭川	『旭川市史』
16	空知	1897	富山	団体名なし	富山県新屋、小摺戸、舟見など入善町	黒部川の洪水	明治30年から	雨竜町	『雨竜町百年史』
17	十勝	1897	石川	加賀団体	石川県能美郡新丸村	明治28、29年の北陸水害。大日川の洪水。	明治30年	帯広市大正	『帯広市史』『加賀開拓百年史』
18	十勝	1897	岐阜	武儀団体	岐阜県武儀郡中有知（なかうち）村	明治24年濃尾地震、明治26年長良川の洪水	明治30年	音更町武儀	『音更百年史』『武儀史』『鷺見邦司翁と岐阜県人十勝開拓史』
19	十勝	1897	岐阜	岐阜団体	岐阜県揖斐郡坂内村	明治24年濃尾地震、明治26年長良川、揖斐川、飛騨川の洪水	明治30年	帯広市川西	『帯広市史』『鷺見邦司翁と岐阜県人十勝開拓史』
20	十勝	1897	岐阜	美濃開墾合資会社	岐阜県本巣郡、揖斐郡から小作人募集	明治24年濃尾地震、明治26年長良川、揖斐川、飛騨川の洪水	明治30年	士幌町中士幌、芽室町ケネ	『士幌町史』『鷺見邦司翁と岐阜県人十勝開拓史』
21	十勝	1897	富山	越中集落	富山県砺波郡、西砺波郡が多い	明治28、29年の北陸水害。	明治30年から	帯広市大正	『幸一開拓百年記念誌 納福の里』
22	十勝	1897	富山	富山県人	富山県砺波郡、西砺波郡が多い	明治28、29年の北陸水害。庄川の洪水。	明治30年から	帯広市伏古（西帯広）	『帯広市史』
23	十勝	1897	富山	五位団体	富山県西砺波郡五位村	明治28年、29年の洪水。庄川、大日川、九頭竜川。	明治30年	幕別町五位	『幕別町百年史』『更別村史』
24	十勝	1898	岐阜	別府団体	岐阜県本巣郡穂積村別府	明治24年濃尾地震、明治26年長良川、揖斐川、飛騨川の洪水	明治31年	帯広市別府	『大正村史』『郷土八十年の歩み 上帯広基松』『鷺見邦司翁と岐阜県人十勝開拓史』
25	十勝	1898	福井	越前団体	福井県大野郡下味見村、上庄村、遅習村、北谷村、平泉寺村	明治28、29年の北陸水害。足羽川の洪水。	明治31年	帯広市大正	『帯広市史』『百歳』（大正地区越前団体の百年史）
26	渡島	1907	岐阜	団体名なし 後藤光太郎	岐阜県安八郡三城村加賀野	明治24年濃尾地方の大地震	明治末期	森村字上濁川	『改訂 八雲町史』
27	渡島	1908	福島	団体名なし 団体長大竹喜代作	福島県川沼郡及川村沼	川村付近の3年連続の凶作	明治41年	熊石村相沼内内川上流、古川岱	『熊石町史』
28	後志	1908	山梨	山梨団体	山梨県	明治40年夏洪水	明治41年、44年	京極町字脇方、字甲斐、俱知安町字山梨、豊浦町字山梨	『京極町史』、『観光』（山梨観光協会月刊紙）
29	後志	1908	山梨	山梨団体	山梨県	明治40年富士山麓一帯の大水害	明治41年	京極町字脇方、字甲斐、俱知安町字山梨、豊浦町字山梨	『俱知安町史』、『俱知安百年史』
30	オホーツク	1911	秋田	秋田団体	秋田県平鹿、雄勝、田根森	明治41、42年のウンガの発生、43年の雄物川の洪水	明治44年、45年	置戸町秋田	『置戸町史』『秋田史』（置戸町秋田地区の集落史）
31	オホーツク	1911	福島	福島団体	福島県信夫郡佐倉村、野田村など	明治43年の福島県冷水害	明治44年4月実地調査、明治45年入植	常呂町毛当別（現在の美里）	『常呂町史』
32	後志	1911	群馬	群馬団体	群馬県邑楽郡	洪水圈のため	明治44年	留寿都村登地区	『留寿都百年史』、『日本の民俗・群馬』
33	後志	1911	群馬	第一群馬団体	群馬県群馬郡室田町	明治43年8月6日～11日の大風水害	明治44年	京極町字東花	『京極町史』

	振興局	入植年	出身地	団体名	出身地	契機となる災害	入植年	入植地	出典
34	後志	1911	山梨	山梨団体	山梨県	明治40年8月の大水害、明治43年8月の大水害	明治44年	真狩村キモーベツ、ソーケシュ（旧名表記）	『喜茂別町史』
35	空知	1911	群馬	群馬団体	群馬県佐波郡豊受村大字国領村	明治43年8月7日の豪雨	明治44年から	雨竜町国領	『雨竜町百年史』
36	根室	1913	北海道	長沼団体	北海道長沼町	石狩川の氾濫	大正2年	標津町	『標津町史』
37	オホーツク	1914	栃木	栃木団体	栃木県	連年の大洪水	大正3年	斜里町越川	『斜里町史』
38	オホーツク	1916	佐賀	佐賀団体	佐賀県杵島郡有明地方	大正3年8月25日の暴風雨による高潮（津波）	大正5年	常呂郡ボンムカ、紋別郡ムリイ	『丸瀬布町史』
39	十勝	1918	佐賀	佐賀団体	佐賀県杵島郡福富村	有明海干拓地が津波で流出	大正7年	鹿追町ウリマク原野	『鹿追町史』
40	十勝	1918	山形	山形団体	山形県滝山村	水害	大正7年	鹿追町ウリマク原野	『鹿追町史』
41	後志	1922	宮城	登米団体	宮城県登米郡吉田村、米山村	最上川と迫川の氾濫による水害	大正11年	ニセコ町	『ニセコ町史』
42	根室	1923	東京	（標津町への移民）	（東京など）	関東大震災	大正12年以降	標津町	『標津町史』
43	渡島	1930	不明	団体名なし	表記なし	大正12年 関東大震災	昭和5～8年	上八雲、山崎、富咲	『改訂 八雲町史』
44	後志	不明	徳島	徳島移民	徳島県	明治8年吉野川水害		仁木町	『新仁木町史』、『殖民公報 第10号』
45	十勝	不明	岐阜	上土幌への単独移住（野口嘉吉、野口さく、丸山善吉、土田鉄五郎）	岐阜県	明治24年濃尾地震、明治26年長良川洪水	不明	上土幌	『上土幌町史』

図-1 災害による移住の年代別件数

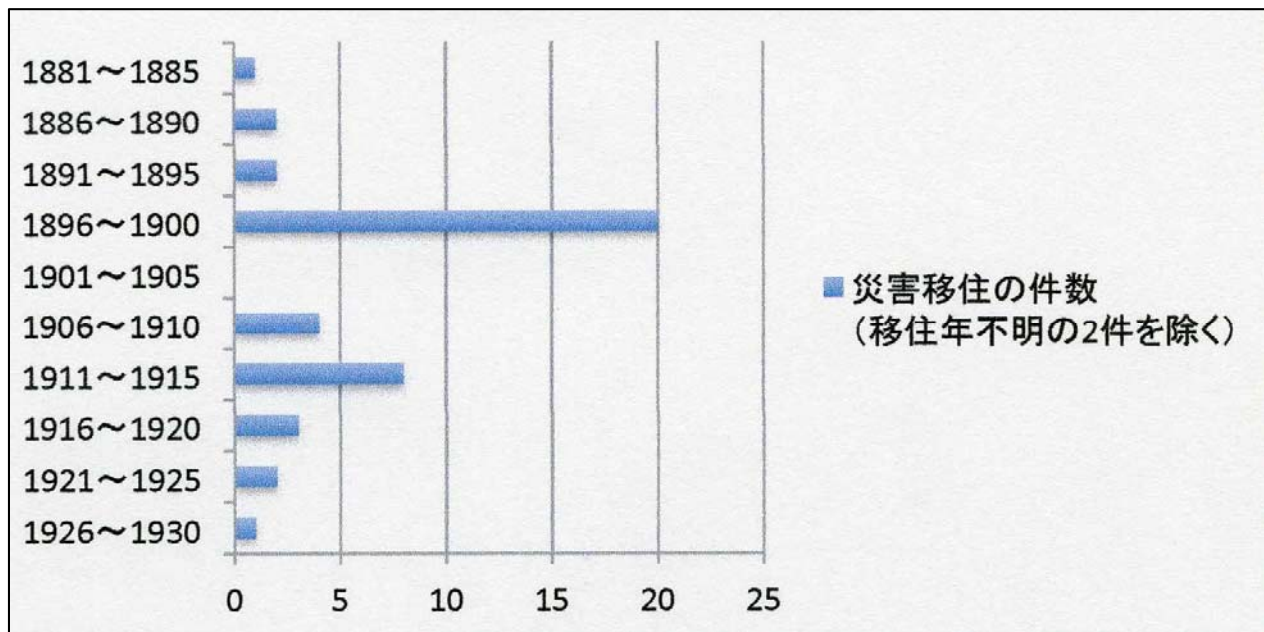


図-2 1890年代の岐阜及び北陸三県の災害と北海道移住

地図は「CraftMAP」より作成・引用

A: 団体名・農場名

B: 起因となった災害と発生年

C: 出身地

D: 入植先と入植年

A: 五位団体

B: 庄川の氾濫 (1895、96)

C: 富山県西礪波郡五位

D: 十勝管内幕別町五位 (1897)

A: 団体名なし

B: 白山連峰での大洪水 (年不明)

C: 石川県白山

D: 空知管内奈井江町 (1896、97)

A: 加賀団体

B: 大日川の氾濫 (1895、96)

C: 石川県能美郡新丸村

D: 帯広市大正 (1897)

A: 越中集落

B: 北陸水害 (1895、96)

C: 富山県礪波郡、西礪波郡

D: 帯広市大正、伏古 (1897～)

A: 越前団体

B: 足羽川の氾濫 (1895、96)

C: 福井県大野郡

D: 帯広市大正 (1897)

A: 池田農場の小作人

B: 凶作、九頭竜川の氾濫 (1895、96)

C: 福井県坂井郡

D: 十勝管内池田町 (1896～)

A: 松岡農場の小作人

B: 福井水害 (1895)

C: 福井県

D: 後志管内ニセコ町 (1896)

白山連峰周辺地域

A: 団体名なし

B: 黒部川の氾濫 (年不明)

C: 富山県下新川郡入善町

D: 空知管内雨竜町 (1897)

白山

A: 武儀団体

B: 濃尾大地震 (1891)、長良川の氾濫 (1893)

C: 岐阜県武儀郡中有知村

D: 十勝管内音更町武儀 (1896)

A: 美濃開墾合資会社

B: 濃尾大地震 (1891)、長良川・揖斐川の氾濫 (1893)

C: 岐阜県本巣郡・揖斐郡

D: 十勝管内上士幌町中士幌 (1898)

濃尾大地震等地域

A: 岐阜団体

B: 濃尾大地震 (1891)、長良川・揖斐川の氾濫 (1893)

C: 岐阜県揖斐郡坂内村

D: 帯広市川西 (1897)

A: 別府団体

B: 濃尾大地震 (1891)、長良川の氾濫 (1893)

C: 岐阜県本巣郡穂積村別府

D: 帯広市別府 (1896)

A: 岐阜集団

B: 濃尾大地震 (1891)、根尾川の氾濫 (年不明)

C: 岐阜県揖斐郡稲富村

D: オホーツク管内常呂町岐阜 (1896)

A: 後藤光太郎

B: 濃尾大地震 (1891)

C: 岐阜県安八郡三城村加賀野

D: 渡島管内森村上濁川 (1907)

50km